



由布市市議会議員

佐藤 たかあき

活動記



vol. 1

PICK UP

令和元年 11月19日の臨時議会にて 議会構成が改選されました。

議席番号 1番 佐藤 孝昭 (さとう たかあき)

- ◎ 産業建設常任委員会 副委員長
- 議会広報編集特別委会 委員
- 議会活性化調査特別委員会 委員
- 議会予算・決算 特別委員会 委員
- 由布大分環境衛生組合議会 議員
- 健康立市推進協議会 委員
- スポーツ推進審議会 委員
- 由布市都市計画審議会 委員
- 特別小口融資審査委員会 委員
- 小企業者店舗等整備改善融資金利子補給審査会 委員

次の議員選挙までの後半2年間の所属と担当委員が決まりました!!

前半の役職も初当選から2年経ち、やっと慣れてきたところでしたが、今回は新たに由布市の基幹委員会である「産業建設常任委員会」に行かせていただき、さらに副委員長の役もいただいたところです。

市民の方に1番密接にある、働き場と住環境を整える農業、建設、商工、観光、環境をかかえる委員会です。インフラ整備、農業・商工・観光の振興、未来への環境整備をしっかりと勉強しながら、由布市にまた皆様に最適な効果と環境を整え、持続可能な安定した由布市のカタチを提供できますように努めます。若い力で故郷に貢献いたします!!

その他の所属

- 東庄内地区開発促進協議会 会長
- 阿蘇野期成同盟会 顧問
- 未来ある村・日本農泊連合応援団 顧問
- 庄内地域活性化団体・道の駅しょうない市民ネット 顧問
- 由布市ソフトボール協会 会長
- 由布市バレーボール協会 会長
- 総合型地域スポーツクラブ・みことスマイルインクラブ 顧問

若い力で故郷に貢献!
未来に挑戦!!
『佐藤たかあきの想い』



1 「由布のブランド」をつくり、
通過地から目的地を作る。

耕作放棄地や空き家などから売物ブランドをつくり、地産地消を推進します。

2 今ある「由布の財産」を、
世界に発信し魅力を創る。

歴史、伝統、文化(神楽や祭りなど)を再認識、情報発信して地域を守ります。

3 「福祉日本一の由布」を創る。

高齢者と子どもたちが住みやすい、家族の人が安心・安全・安定のある福祉都市。

4 若者や地域の方々が活躍できる
「労働の場・由布」を創る。

発想やアイデアがカタチ(起業・想像)にしやすい環境整備。民間企業との連携。

5 流通拠点「大分のへそ・由布」を創る。

インフラ(産業・生活基盤)を安定・強化させ、由布市に人・物・経済を呼び込む。

新庄内公民館の『自動ドア問題』が 議会で紛糾しました。



皆さんもご存じの通り、当初予算額よりも膨らみ総額7億円でできた庄内公民館。

ところが竣工して9か月も経たずして、約500万もの市民の税金を投入して自動ドアに換える予算案が示されました。私が疑問を持ったのは、3億円の追加予算が当時の議会で承認になって総額7億円になった時点では、「自動ドア」での設計でした。ところが、新公民館ができてみれば重い「手動ドア」に変更されていたことです。関係者も首をかしげる始末。執行部は新聞記者にも答えたように「高台で風が強いいため安全のため手動ドアに変更した」とのこと。さらに委員会で追求すると色々

分かってきましたが、あまりにも議会への報告＝市民への説明責任を軽視した行為だったと反省すべきと追及いたしました。決して、自動ドアにすることを反対しているものではなく、竣工9か月で安易に変更したり、配慮を欠いた事に異議を投じた次第です。

私たち議員は、市民の方が納めた大切な税金をどう使われているか、正しい方向性なのかを執行部をチェックし、市民の方に分かりやすくお伝えをする義務もあると考えています。これからもしっかりと市民の皆様が望む議員になれるようがんばります!!!

令和2年1月10日の大分合同新聞に 『由布市議会の記事』 が掲載されました。

えと繰り返して約20年ほど経って
いました。私は若いころから「道
の駅」には注目していて庄内地
域もあればいいなと思いついて
いました。初一般質問で庄内地
域での「道の駅」構想の計画、検
討すらない事を市長に確認し、
0から出発することを余儀なく
されました。そこから地域の方
を集め、勉強会を座談会でやり
続け、道の駅の運営形態ややり
方を研究し、市民意識の醸成を

令和元年12月議会一般質問に
て、執行部へ庄内地域の少子化と
人口減少問題への対策を問いま
した。
そこで庄内地域には活性化し
ていくのに拠点施設が必要でな
いかと訴え、その1つとして「道
の駅しようない」を検討してい
ないかと提案しました。
私が議員になった平成29年ま
で「道の駅庄内」の構想は挙がっ
ては消え、また挙がっては絶ち消

光の湯布院。それぞれの魅力を
生かした町づくりを進めてきた
が、人口数などで差が開きつつあ
る。国勢調査によると、2015
年の人口は▽挾間 1万6270
人(05年比869人増)▽庄内
7552人(同1391人減)▽体的な計画はないが、さまざまな
要素を総合的に検
討する必要がある
」との姿勢。既
存の直売所との調整も必要になる
だろう。

図り、市へ提案書、意見書を出す
までになりました。
座談会はこれからが正念場です
が、市も今回の一般質問で窓口と
担当課を決めてもらい前向きに
進んできた気がします。
庄内地域に「道の駅」は、東は
大分市のベッタタウン挾間町、
西は日本一の観光地湯布院町、
そして土壌豊かな庄内地域、国
道210号の交通量1万台、湯
布院大分間の40kmの中間の20km
地点、大分市・別府市・竹田町・九
重の通過点、などなど「道の駅」に
適した好立地と考えます。生産
流通消費を好循環させ農業ビジ
ネスも広がります！色々な機能
(防災・観光・福祉・スポーツ)も持
たせ整備してもらいます！
ぜひやりましょう!!

議会傍聴席から 記者の目

道の駅 多面的な検討を

平成の大合併で由布市が誕生し
てから今年で15年。12月議会の
一般質問では、合
併後に顕在化し
てきた旧3町の格
差について複数の議員が質問し
た。
挾間地域の議員は児童数の増加
により、小学校の校舎が手狭にな
っていることを指摘。一方、庄内
地域の議員は少子高齢化や人口減
少への対策をたじた。
議員は地域活性
の起爆剤として道の駅の設置を

湯布院 1万4400人(同602
人減)。市役所がある庄内地域の
減少が目立つ。
執行部は「庄内地域の少子高齢
化は今後も続く。空き家バンク制
度を利用した移住定住対策を進め
ていく」と答弁。議員は地域活性
多面的な検討を求めたい。
(由布支局・伊藤友仁)